

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ



2013年 10月号(隔月刊) 第128号

ふじみの国際交流センターが 平成25年度外務大臣表彰受賞

7月31日(水)に六本木にある外務省飯倉会館に於いて表彰式が行われました。そこでFICECは団体賞をいただきました。

外務大臣表彰は日本と諸外国との友好親善に著しく寄与した個人と団体を外務大臣が表彰するもので、今年度は個人97人と31団体が受賞しました。

私達が受賞できたのは、地域の皆様をはじめ、埼玉県、市町村、各関連団体の皆様からの格別のご協力ご支援を受け、設立以来15年にわたり活動することができたお陰と感謝しております。

団体賞受賞者の8割は海外に拠点を持ち、

海外で活動をしている団体で、外務省がFICECのような国内の外国人支援団体の活動に理解を示してくれた事をうれしく思いました。

個人受賞者の中には、サッカー解説のセルジオ越後さんや、タレントのオスマンサンコンさんがいました。

外務大臣表彰の受賞に驕ることなく、これからもスタッフ一同、力を合わせて地道に活動していく所存です。

今後ともご支援ご指導をどうぞよろしくお願いいたします。



表彰状



岸田外務大臣と記念写真!!

外国ルーツの人たちに、国が責任をもって日本語を指導してほしいと頼んできました。

外国人を受け入れる事業所訪問 2

株式会社 TGI

埼玉県川越市木野目

電話:090-9343-0123

正社員、契約社員、派遣社員、パートやアルバイトなど、就業形態の多様化が進んでいます。それに伴い、外国人の働き方も様々になってきています。

今回は、派遣会社を経営し、「派遣で働きたい」という人と、「派遣で働く人材が欲しい」という企業とをマッチングするお仕事をしている小澤ビクトリアさんにお話を伺いました。

Q.1 会社の名前は何ですか？

A.1 株式会社TGIです。

Q.2 どんな会社に外国人を紹介していますか？

A.2 地元の野菜加工工場・パン製造工場・自動車組立工場などです。

Q.3 派遣する人について

Q. どの国の人が多いですか？ A. フィリピンの方が85%
アフリカの方が10%
日本人が5%

Q. 年齢は？ A. 30代が一番多く、それから20代です。

Q. 日本語を読んだり、書いたり、話したり出来ますか？

A. 話すのは概ね大丈夫です。しかし、読み書きは、ほとんどの人が出来ません。

Q. 日本語が出来ない人でも、仕事はできますか？

A. 派遣先によっては出来るところもありますが、最低限のコミュニケーションが出来ないと厳しいです。

Q.4 外国人に仕事を紹介する難しさは何ですか？

A.4 第一は言語の問題、第二は仕事に対する考え方や慣習の違いが難しいところです。

Q.5 仕事紹介までの流れを教えてください。

A.5 派遣先からの要請に基づき、その条件にあう候補を紹介、面接をしてOKであれば契約を交わして派遣を開始します。

Q.6 将来のビジョンを教えてください。

A.6 在日外国人の方は、日本人より雇用の機会が少ないので、一人でも多く働ける場所を確保してあげられればと思います。

永住ビザ、定住ビザ、日本人配偶者ビザを持っている外国人は、就労に関する制限がなくなるため、日本人と同様にどんな仕事でもできるというメリットがあります。

ただ、外国人が「やりたい仕事」に就くためには、日本語と文化の違いという壁を乗り越えなければなりません。働きたい外国人のために企業を紹介するビクトリアさんは、外国人にとって心強い味方に違いないと感じました。

「ともに考える く多文化共生社会づくり

～持続可能な未来のために～

一般社団法人アクラス日本語教育研究所 7月研修会に参加して

講師：堀 永乃 さん（一般社団法人グローバル人財サポート浜松代表）

講師の堀さんは、「すぐに使える日本語」「求職会話」「介護のための日本語」「企業内日本語」など、多岐にわたる教室をコーディネートされてきた方です。研修会では【多文化共生社会づくり】や【人材育成】を実現するためにパワフルに突き進んできた堀さんのこれまでの活動や苦労を伺い、対話形式で行われました。

浜松国際交流協会の日本語コーディネーターとなった堀さんは、まず地域の日本語教室の実態を調べ、学習者が途中で減ってしまう原因を探るべく話し合いを重ねました。そしてそれまでの教科書中心の教え方から、会話・場面重視の方法を考えました。日本人3人がペアになり、ある場面を演じて見せる。それを見た学習者は「何をしている場面で、何を話しているのだろう」と推測し、会話を聞きとり、最後に文字化したスクリプトで練習するという方法です。この方法は、教室に学習者が入りきらないほどの盛況となりました。『広報が足りない。場所が悪い』等、学習者が来ない原因を外に探すのではなく、やり方を見直すことも必要です。かといって既存の教室を否定するのではなく、さまざまな教室が共存し切磋琢磨していくことが大切だと言われました。

企業内の日本語教室を苦労の末に立ち上げたとき、万全の態勢で始めたもののどうしてもうまくいかず、原因は何なのか…と悩み気づいたのは、そこにコミュニケーションの相手である日本人の姿がないということでした。その後、日本人社員も日本語教室に参加してもらえようになり、一気に生き生きとした活気のある教室になったそうです。そして必死に学習する外国人の姿を見て、日本人社員も「この言い方で伝わるのか？この文書の書き方で伝わるのか？」と考えるようになりました。双方が歩み寄る努力をしたことで、コミュニケーション不足によるミスが無くなったそうです。

「避難所で一番必要な日本語は何だと思いますか？」…答えに詰まる私たちに堀さんは丸と線で絵を描き始めました。それは、炊き出しの大鍋の前で何かを呼びかけている人の絵でした。「炊き出しです！」「何か手伝うことはありますか」「イスラム教なので豚肉は食べられません」避難所で必要な言葉は、「震度4」のような逃げるための日本語より、生きていくための日本語です。学習者にとって本当に必要な日本語は何なのかをもっと深く考えるべきだと気付かされました。

日本語教師はこれからの日本社会になくはならない「人財(財産)」を育てることが出来、日本語ボランティアはコミュニケーションを育てる手伝いをすることが出来る、ともに素晴らしい仕事です。

今回の研修会を通して、日本語教室はもっとオープンにする必要があると感じました。教室内で仲間づくりをして完結するのではなく、教室から出た先で日本語が使えるようにするためにも、外国人も日本人も自由に出入りできるような開かれた場所であればいいと思います。そこでは学習者が自然なコミュニケーションを学ぶことが出来ます。「教える、教えられる」という関係ではなく、共に歩み寄り学びあう関係です。長年日本に住んでいてもなかなか話せない学習者もいます。それは、その方に本当に必要な日本語に私たちが気付いていないだけなのかもしれません。

外国人と日本人が言葉という壁を越えて一緒に社会を作ると意識を皆が共有できるようにこれからも努力したいです。

文責 矢澤 美紀



法的結婚でないとダメ？

藤林 美穂

先日、10年来事実上夫婦として生活しているフィリピン人女性と日本人男性の婚姻手続きを進めるために、法務局に行く2人に同行しました。この女性はいろいろ事情があって、身分証明になる書類が何もありません。パスポートもなく、オーバーステイになっていました。でも、同居している日本人男性ともし結婚ができれば、在留特別許可がおりるかもしれません。

結婚したいカップルの一方（あるいは双方）が外国人で、しかも婚姻手続きのための書類が整わない場合、市役所に婚姻届を出してもその場では婚姻手続きが完了しないことがあります。そうすると、市役所はその書類を管轄の法務局に送って、審査してもらうこととなります。

法務局では、当事者それぞれへの長時間のインタビューが繰り返されます。「婚姻届の紙を出すだけ、しかも2人がそろってなくてもOK（実は代理人が出すのでもOK）」の市役所での婚姻届の簡単さと比べて、どうしてこんなに手間がかかるのか？という大変な手続です。書類が整わない場合、重婚などの間違いを防ぐために、厳重な審査が行われるのは仕方のないことですが…。

最近では、日本人同士のカップルだったら、別に戸籍上で結婚していなくても同居してお互いに満足であればいい、「事実婚」という選択肢もあります。この場合も、子どもが生まれたり、片方が突然亡くなって相続、という場合にはいろいろ難しい問題が控えています。日本社会の中でもだんだん事実婚は認められる傾向にあると思います。しかし、外国人にとっては、

結婚と言ったら、それは法的な結婚、市役所に届出した結婚でなければならないのです。

そんなの当たり前でしょう、と言われそうですが、手続がわからず、なかなか結婚できずにいるうちに一方のビザが切れてやむなく帰国、仲の良い夫婦・家族が引き裂かれてしまう悲劇の一方で、書類上は要件をすべて満たして結婚できているが実は偽装婚、という人もおり、法律上の結婚っていったい何なんだろう、という思いにかられることが時々あります。

カップルが一緒に暮らすというとてもプライベートな事柄について、行政がお墨付きを与えないと公的・法的には夫婦として認められないのが結婚制度で、当然日本人もまたそれに縛られているわけですが、外国人の場合はそれがビザに直結していくことになります。情報がなければに家族離散の憂き目にあう人を見ると、外国人への情報伝達をどうすればいいのか、考えさせられます。



● 筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体でボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

Mちゃんへ

彦吉 章

Mちゃんへ

おひさしぶり！こちらに引っ越して早2年半が過ぎようとしています。息子も新しい友人がたくさんできて毎日思い切り遊んでいます。私は以前から興味があった日本語教室のボランティアを始めようと地元のNPO団体FICECに連絡を取り、土曜日の子どもクラブへ通い始めました。母語である日本語を教えるのがこんなに難しいとは！更に日本にいる外国の子どもたちが抱えるさまざまな事情や教育環境の違いも目の当たりにしました。

今は週に一度、事務作業やホームページの管理、いろいろな行事を手伝っています。引越したばかりの時は、この辺はなかなか人とのつながりがなくてさみしいとMちゃんに弱音を吐いたけれど、FICECには、今日の前で困っている人の状況をどうやって改善しようかと優しく時には厳しく、知恵と技術をもって問題に取り組む人がたくさんいます。もちろんユーモアと笑顔も皆さん忘れてませんよ！またいつか会って話をきいてね！それでは。

見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 十エ

夏休みを前後して大勢の外国ルーツの子供たちがFICECに来た。海外の学校の修了式の影響らしい。

日本で働いている親に呼び寄せられた子ども。両親が外国人で、ずっと海外で生活をしてきたが、もともとは日本で生まれて30日以内に出生届を出しているために、永住ビザを持っている外国籍の子ども。両親が離婚したために外国で暮らしていた日本国籍の子ども。彼らはいずれも、日本語を話すことも読むこともできない。スタッフは、ひらがな・カタカナの指導から始まって、一人ひとりの事情や目的に合わせた対応をする。

9月から日本の学校に編入できるように、挨拶や学校生活に必要な言葉を教えるスタッフ。中学卒業程度の能力試験について県庁まで聞きに行く人。肥満の子どもには食生活のアドバイスを。高校入試や大学受験の勉強に来る国際子どもクラブのいつものメンバーも加わり、準備から指導まで、スタッフは気が抜けない。

そんな中に家族滞在ビザの子供がいた。両親とも、彼を置いたまま朝から晩まで夢中で働いて

いるらしい。父親が十分家族を養えるという条件で発行されているのが家族滞在ビザなので、母親が働くことは認められていない。資格外就労ビザをとったとしても週28時間以内きり働けない。入管の決まりを話すと「もうFICECに子供は行かせない」と母親は怒った。どんな事情があっても法律を守らなくて良いはずはない。正しい情報を提供し指導していくのがFICECの役割だと思うので、怒られても怒鳴られても、これからも指導は続けていこうと思っている。

明日は初めての関東圏外への出張。自治体国際化協会の地域国際化推進アドバイザーになって5年になる。依頼されたタイトルは、「外国人による自助組織形成のプロセス」。おどおどと新幹線のキップの買い方を尋ねる私を心配して、娘が車で長野まで送り迎えしてくれることになった。おまけに2人の孫も同行してくれるという。藤圭子さんの孤独死の訃報を聞いたのは3日前。申し訳ない気持ちと、娘への感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。

ふじみ野市社会福祉協議会主催 小中学生夏休みボランティア体験

今年も開催！ 「ワールドツアー」

FICECには、優秀なフィリピンスタッフがたくさんいます。また、国際子どもクラブにもフィリピンルーツの子ども達がたくさん学んでいます。このスタッフと、学校では教室の片隅でひっそりと勉強している子ども達とを活かした、『ワールドツアー』を計画できないかと、今回は考えました。3人のフィリピンスタッフと、4人の子どもクラブの子ども達！ フィリピンパワーが大いに発揮された、楽しいイベントになりました。

参加者の中には、親子でフィリピンの事前勉強をして来たり、夏休みの自由学習のテーマにするからと、大事そうに料理のレシピを持って帰ったりした子ども達もいました。(文責 山畑 博子)

講師の吉井ジュリエッタさんに感想を聞きました。

「最初は、フィリピンの料理をみんなが喜んで食べてくれるか心配でした。それで、なるべく日

本の調味料を使うことにしました。特にスープが酸っぱいので、子ども達は食べられないかと心配でした。しかし、みんな残さず食べてくれました。中には、「アドボ」のソースが美味しいからとご飯に混ぜて食べていた子もおり、嬉しかったです。

皆に着てもらおうと、フィリピンの洋服をいろいろ用意しました。子ども達は、最初はなかなか着てくれませんでした。日本の子は、恥ずかしがり屋が多いのですね。

「ジャックストーン」のゲームは、フィリピンの室内ゲームです。みんな興味を持ち、とても盛り上がりました。練習してすぐ上手になった子もおり、楽しい時間が持てました。

色々な国の文化を紹介するこのような企画は、とても良いと思います。また機会があったら、講師をやりたいです。たくさんの日本人に参加してもらい、お互いの理解が深まるといいですね。」



インターン活動報告

FICECでは、毎年夏休みを中心に大学生インターンを受け入れしています。

「なぜたくさんの方が、自分の時間をボランティア活動に捧げているのか？短いインターン活動のなかで、この答えを少しでも見つけて欲しい。」こんな願いを持ちながら、スタッフが一丸となってサポートをしています。

今年の夏、活動を共にした埼玉大学の蓬田さん、松山さん、日本社会事業大学の吉間さんの感想をご紹介します。

今回、大学の夏季インターンシップでふじみの国際交流センターにお世話になりました。初めて参加させていただいたのが、国際子どもクラブでした。右も左もわからず、緊張を隠せない中、活動が始まったのですが、温かく受け入れていただき、楽しく活動することが出来ました。外国人の方々と共に学んでいく中で、日本語というもののあいまいさ、難しさにぶつかることもありました。しかし、日本語学習以外での子ども達とのコミュニケーションから、言葉だけでなく、思いを伝えようとするのが大切なのだと感じました。

国際交流の経験がほとんどなかった自分にとって、FICECでの活動は初めて見るもの、出会うものばかりでしたが、そのどれもが新鮮で、学ぶことだらけでした。また、様々な経験ができるようにと取り計らっていただき、多くのことを体験させていただきました。学校ではすることのできない経験がたくさんできました。本当にありがとうございました。

埼玉大学 経済学部 蓬田 愛実

私はインターンシップを通して様々な方たちと出逢いました。そして、その経験を通して気付かされたことがあります。

1つ目に、外国人は特別な存在ではないということです。外国からやってきたといっても助け合うべき対象であり、永住権をとった人はもはやただの隣人です。異なる文化圏からやってきた人たちは私たちのあたり前がわからないのです。

2つ目に、コミュニケーションは言葉に限ったことではないということです。もちろん同じ言語を話せることはコミュニケーションを簡単にします。しかし、言語が通じないからわかり合えないということはありません。例えば、絵を描いたり、ジェスチャーを使えば、わかり合えます。私も伝えようという意思があれば、意外と通じるという事が分かりました。

そして、重要なのは、外国人を特別な存在として捉えてしまっている人たちが現状や気持ちを知るだけでより良い関係が築けるかもしれないということです。インターンシップでこのようなことを感じました。

埼玉大学 工学部 松山 裕樹

私は8日間インターンシップをさせて頂きました。センターでは、日本語教育や会話を通して外国の子供達と交流をさせて頂き、スタッフさんからは、センターの活動や外国人への制度等を教えて頂きました。外国人ボランティアさんからは日本と自国との違い等も伺う事ができ、また理事長の石井さんが講師を務める勉強会にも参加させて頂きました。

今まで外国の方と触れ合う機会がほとんどなく、外国人問題についてあまりイメージができていませんでしたが、今回のインターンシップを通して、言語や教育の問題から結婚や制度の問題、そして心の問題など多くの問題がある事を学びました。そしてそれに対する支援が少なすぎる事を痛感させられました。

8日間あっという間でしたが、考えさせられる事が沢山ありました。私が学びきれなかった問題はもっとあると思います。ここで学んだ事は、学校や普段の生活で学べるものではなく大変貴重な経験となりました。センターの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

日本社会事業大学 吉間 由布子

センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2012年4月～(50音順・敬称略)

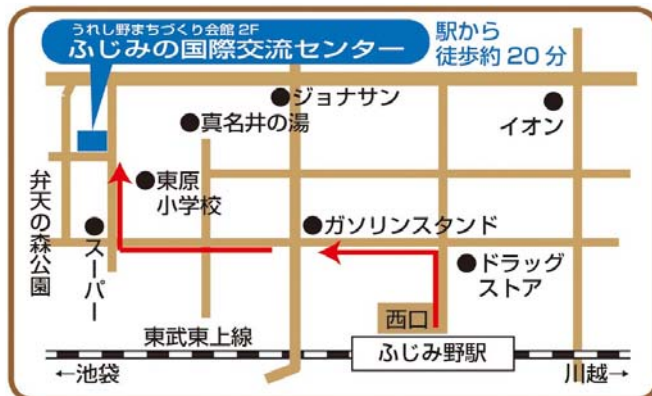
阿澄康子、穴沢エミリン、新井順子、新井良司、荒田光男、イオン(株)大井店、石井ナナエ、岩田仁、上島直美、上原美樹、太田原裕、大西文行、小熊千寿子、小原知子、葛西敦子、加藤久美子、神田順子、国際ソロプチミスト埼玉、木場ひろみ、駒形一夫、佐藤義治、白砂正明、菅山修二、鈴木譲二、関ニーランティ、多ヶ谷實、武田和子、立麻医院、立麻肇子、田中つや子、寺村壁如、戸塚成子、内藤忍、中嶋恵津子、中村禎作、中山明子、西川由比子、沼田伊玖俊、野沢弘子、野辺頼之、萩原千代子、長谷川雅恵、長谷川正江、浜本由里子、東入間地区遊技業防犯協力会、FICEC英語教室参加者一同、藤巻則幸、彦由章、松浦康介、森和也、山崎友理、山畑博子、匿名希望3人

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。



サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター（製版代） 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円＋交通費
	外国料理教室	5,000円（材料費別途）
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、 ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン（A4判）	
翻訳	英語、中国語、韓国語、 ポルトガル語、ロシア語、 タガログ語、スペイン語、 タイ語、ベトナム語	婚姻関係、ビザ 申請、履歴書 A4判1頁、 40字・30行 1枚1,500円
	その他の文書	A4判1頁、 40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、 ロシア語、タガログ語、スペイン語、 タイ語、ベトナム語	半日5,000円より＋交通費

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10

うれし野まちづくり会館2階

Tel:049-256-4290 Fax:049-256-4291

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。